

海辺の映画館—キネマの玉手箱 (2019)

メディア 映画

ジャンル ファンタジー ドラマ

製作国 日本

色彩 Color

時間 179分

初公開日 2020/07/31

公開情報 アスミック・エース

映倫 PG12

【キャッチコピー】

また見つかった。

何がだ？

永遠。

【解説】

2020年4月に惜しくもこの世を去った大林宣彦監督の遺作となったファンタジー・ドラマ。20年ぶりとなる故郷・尾道を舞台に、戦争映画のオールナイト上映をしていた海辺の映画館で、突然スクリーンの世界にタイムリープしてしまった3人の若者が、それぞれの時代を生きる人々との交流を重ねながら戦争の歴史を追体験していくさまを、エネルギッシュかつ自由奔放な筆致で描き出す。主演は厚木拓郎、細山田隆人、細田善彦、それぞれの運命のヒロインに吉田玲、成海璃子、山崎紘菜。また常盤貴子ら大林組ゆかりの俳優陣はじめ多彩な豪華キャストが脇を固める。

尾道の海辺にある唯一の映画館“瀬戸内キネマ”が、閉館を迎え、嵐の中、最終日のプログラムとして“日本の戦争映画大特集”のオールナイト上映が始まる。すると、映画を観ていた3人の若者、毬男、鳳介、茂が突然スクリーンの世界にタイムリープしてしまう。乱世の幕末や戊辰戦争、日中戦争などを体験しながら、上映中の戦争映画の中を旅していることに気づく3人。やがて原爆投下前の広島に迷い込み、そこで看板女優の園井恵子率いる移動劇団“桜隊”と出会う3人だったが…。

【クレジット】

| | | |
|----------------|-------|-------------------|
| 監督 | 大林宣彦 | |
| アクション監督 | 森聖二 | |
| 企画プロデューサー | 鍋島壽夫 | |
| エグゼクティブプロデューサー | 奥山和由 | Kazuyoshi Okuyama |
| プロデューサー | 中村直史 | |
| | 小笠原宏之 | |
| | 門田大地 | |
| 脚本 | 大林宣彦 | |
| | 内藤忠司 | |
| | 小中和哉 | |
| 脚本協力 | 渡辺謙作 | |
| | 小林竜雄 | |
| 撮影監督 | 三本木久城 | |
| 美術監督 | 竹内公一 | |
| 衣裳 | 千代田圭介 | |

| | | |
|--------|---|---|
| 編集 | 濱中美衣 大林宣彦 三本木久城 | |
| 音響効果 | 佐々木英世 伊藤進一 | |
| 音楽 | 山下康介 | |
| 製作協力 | 大林恭子 | |
| 監督補佐 | 桑原昌英 | |
| 合成 | 三本木久城 | |
| VFX | 塚元陽大 | |
| 照明 | 西表燈光 | |
| 録音 | 内田誠 | Makoto Uchida |
| 整音 | 山本逸美 | |
| 装飾 | 相田敏春 | |
| 小道具 | 中村聡宏 | |
| ヘアメイク | 和栗千江子 | |
| 撮影台本 | 大林宣彦 | |
| 撮影台本協力 | 桑原昌英 | |
| ナレーション | 広中雅志 綿引さやか | |
| 出演 | 厚木拓郎 細山田隆人 細田善彦 吉田玲 成海璃子 山崎紘菜 常盤貴子 小林稔侍 高橋幸宏 白石加代子 尾美としのり 武田鉄矢 南原清隆 片岡鶴太郎 柄本時生 村田雄浩 稲垣吾郎 蛭子能収 浅野忠信 伊藤歩 品川徹 入江若葉 渡辺裕之 手塚眞 犬童一心 | 馬場毬男 鳥鳳介 団茂 希子 斉藤一美 芳山和子 橘百合子 杵馬（瀬戸内キネマ支配人） 爺・ファンタ 老婆（チケット売場） 坂本龍馬 能を踊る男 千利休 中岡慎太郎 西郷隆盛 大久保利通 芹澤鴨 酒匂（苦力姿） 川島芳子 宮本武蔵 お通 浅野深夫上等兵 映画監督（小津） 映画監督（山中） |

| | |
|-------------------------|--------------------|
| 根岸季衣 | お李 |
| 中江有里 | 奈美子（新聞記者・爺・ファンタの娘） |
| 笹野高史 | 加也を刺す上官／車掌／倉庫番A |
| 本郷壮二郎 | 滝上等兵／軍曹（日本軍駐屯地） |
| 川上麻衣子 | 愛姫（滝の中国女） |
| 満島真之介 | 金城 亀二 |
| 大森嘉之 | 金城亀吉（村長） |
| 渡辺えり | 宮地節子（列車のおばさん） |
| 窪塚俊介 | 丸山定夫 |
| 長塚圭史 | 男の子の父 |
| 寺島咲 | 男の子の母 |
| 犬塚弘 | 映画館で幸せそうに居眠りする客 |
| 有坂来瞳 | |
| 大場泰正 | |
| ミッキー・カーチス Mickey Curtis | |